



Title	米国管理下の南西諸島状況雑件 会談録 (日・琉球首脳、政府高官) (42・11・2三木外相・松岡主席 外務省外交史料館レファレンス番号 : H221326)
Author(s)	-
Citation	平成22年度外交記録公開(3)No.1 公開日 : 平成22年12月22日 外務省外交史料館管理番号 : A'3.0.0.7-1(5) CD・DVD番号 : H22-009
Issue Date	
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43191
Rights	外務省外交史料館所蔵資料

42
11
2

三木外相
松岡主席

報告を提出する。(4) 外務官の拒否権を行使する
の理由を説明し、若くは之を説明し、
主席公使に説明した。主席公使は、
今回の行程が米の成果如何にもかかっている。特
に自治権の大幅拡大と格差是正の問題がある
旨を答えた。

大臣は、施政権については、最小限の程度
を取った。おこるかと質した。主席は、
返還のメドがある旨を答えたので、大臣は、若干形
容詞は、(かま) 中々か、何年か後というふう
に答へた。大臣は、
大臣は、
大臣は、
大臣は、

大臣は、
大臣は、
大臣は、
大臣は、

大臣は、
大臣は、
大臣は、
大臣は、

大臣は、
大臣は、
大臣は、
大臣は、

大臣は、
大臣は、
大臣は、
大臣は、

この程度強いのかと質した。主席は、
これは、政治的セクターの問題であり、
施政権とは別である旨を答えたので、大臣は、
これは政治的セクターとみてよいかと念を
おこした。主席は、
大臣は、
大臣は、
大臣は、

大臣は、
大臣は、
大臣は、
大臣は、

大臣は、
大臣は、
大臣は、
大臣は、

大臣は、
大臣は、
大臣は、
大臣は、

大臣は、
大臣は、
大臣は、
大臣は、

大臣は、
大臣は、
大臣は、
大臣は、

大臣は、
大臣は、
大臣は、
大臣は、

工は之を種に一モ又起さうとある者も
居ると思われるので、これにふたから行な
う様

14日、15日の会議の後には沖絶は

に12欲し旨要望し、更に、とにぬ、施政
権返還内題が兩國向の公式協議の場

の事だったことだけ、大きな前進であり、その
意味で日本政府の努力を多とするといつた

趣旨で、沖絶の人心を落ち着かせるよう努力
しては(後旨、繰)返し要望したと云う。先方
(先旨、沖絶与党の幹部にも話してはし

も、自合として、その大げな大きな前進である
と思う。沖絶与党の幹部も心の中では、日本

政府と同じ考之方をしている旨答えた。
最後に大臣より、南くとも3125と、主席か

以前マクマラ国防長官に会った際、マクマラ長官
は、かなりきつことを云ったそうだが、どうい

ことを云ったのかと質したところ、主席は、
マクマラは、「日本は、米国の防衛の翼の下
分

で各情産を~~作~~とけたにもなつてあり、防衛面
での米国に対する協力けうあり、韓国は
日本の

ウレ) ~~作~~トナムに出兵しているのに日本はしてない。
又、米国が沖絶を引きあけて日本

防衛はどうかするの久。日本は憲法改正か
でせうと情勢に守るか。日本政府は、

防衛の準備があるのか、と云う趣旨の事
を云い、その旨も、沖絶占領にいたる根本的

原因は、日本の~~真球湾~~を改革したことに
あると云った旨説明した。